1 単元名 平仮名の筆使い 『あこがれ』

2 目標

- 自分のめあてをもち、練習方法を工夫して学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 穂先の動きとつながりについて理解し、書くことができる。(知識・理解, 技能)
- 用紙全体に対する文字の大きさに気を付けて、行の中心をそろえて字配りよく書くことができる。(技能)
- 用紙全体に対する文字の大きさや、字配りについて意識することができる。(日常化)

3 指導計画(全2時間)

第1時 平仮名の書き方や筆使いを理解し、毛筆で練習する。

第2時 用紙全体に対する文字の大きさに気を付け、行の中心をそろえて字配りよく書く。(本時)

4 指導上の立場

- 本単元は、第5学年及び第6学年の内容(2)「ア用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。」を受けて設定されている。本題材は、平仮名を毛筆で書くときの穂先の動きを理解し、線と線とのつながりに気を付けて書くこと、用紙と文字の大きさの関係を考えて書くことをねらいとしている。これまでは文字の整え方中心の学習が多かったが、ここでは用紙に対する効果的な文字の大きさや配列を考える学習に発展させる。その際に上下左右の余白・字間・行間・文字の大きさ・行の中心などに気を付けて書けるようにし、硬筆等、日常の書字活動に活用できる力を育てていきたい。
- 本学級の児童は、書写の時間に集中して取り組むことのできる児童が多い。中心線を引いたり、外形を書いたりして練習用紙を自作し、文字の組み立て方を理解しながら、文字を整えて書くことができるようになってきた。しかし、日常の書字活動のノートなどでは、マスや行からはみ出したり、文字の大きさが整っていなかったりする児童がいる。そこで、用紙全体に対する文字の大きさに気を付け、行の中心をそろえて字配りよく書くという意識付けをし、日常の書字活動に生かそうとする意欲を育てていきたい。
- 本校の研究主題である「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために次のような学習の工夫を行う。
 - ・平仮名を1文字ずつ用紙に書き、それらを1つにまとめて手本と比べることで、用紙全体に対する文字の大きさや、行の中心をそろえて字配りよく書くポイントに気付くことができるようにする。また、平仮名の指導にあたっては動画を利用して穂先の動きが確認できるようにする。
 - ・めあてに沿って練習用紙を自作し、自ら工夫して主体的に取り組むことができるようにする。
 - ・練習の途中で交流の場を設けることで、相互評価の際に、友達のがんばったところや上達したところを見付けやすくし、上達の喜びを味わえるようにする。
 - ・色々な種類の用紙に書かれた応用教材を紹介し、用紙と文字の大きさや字配りを考えて書くことの大切さを確認し、日常生活に生かすことができるようにする。

5 本時案 (第2時)

目 標	<p>○文字の大きさに気を付けて、行の中心をそろえて字配りよく書くことができる。</p> <p>○自分のめあてをもち、自分のよさや友達のを認め合って、進んで練習することができる。</p>		
学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 個への対応 (◆) 評価 (◇)		準備物
1 学習のめあてをもち。 ・文字の大きさがそれぞれ違う。	<p>T 1</p> <p>・前時に課題として出た「文字の外形や大きさ」について、1文字ずつ書いた前時のまとめ書きを1枚の用紙になるようにつなげたものを、手本と比較することで、本時のめあてに迫ることができるようにする。</p>		前時のまとめ書き 手本プリント
・まわりに余白がある。 ・行の中心を考えないといけない。	<p style="text-align: center;">文字の大きさや字配りに気を付けて書こう。</p> <p>・拡大手本で字配りよく書くためのポイントを話し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">}</div> <ul style="list-style-type: none"> ・上下、左右の余白 ・文字の大きさ ・文字の外形 ・字間、行間 ・行の中心 </div> <p>・前時のまとめ書きを1つにしたものを見ることによって、自分のめあてを2つ選択し、学習カードに書くことができるようにする。</p> <p>・ポイントを視覚的に捉えることができるように板書をする。 ◆自分のめあてを見つけにくい児童には、手本との比べ方を助言するなど、個別指導する。</p>		拡大手本 学習カード
2 練習をする。 ・自分のめあてを意識して書こう。	<p>・前時の学習を振り返り、筆使いを意識して書くことができるようにする。</p> <p>・自分のめあてが達成できるように、練習用紙を自作して練習する。</p> <p>・途中で練習の様子を報告し合うことで、友達や自分のよさを伝え合ったり、練習方法を改善したりすることができるようにする。</p> <p>◆困っている児童には、手を添えて一緒に書いたり、助言を行ったりする。 ◇自分のめあてをもち、自分のよさや友達のを認め合って、進んで練習することができる。(関/観察)</p>		
3 まとめをする。 ・字配りよく書けるようになった。	<p>・自分のめあてを再確認してから、まとめ書きをするように助言する。</p> <p>・自己評価、相互評価をする場を設け、自他の伸びを認め合えるようにする。</p> <p>◇文字の大きさに気を付けて、行の中心をそろえて字配りよく書くことができる。(技/まとめ書き)</p>		学習カード 教材提示装置
4 日常生活に生かす。	<p>・色々な種類の用紙に書かれた応用教材を紹介し、用紙と文字の大きさや字配りを考えて書くことの大切さを確認し、日常生活に生かすことができるようにする。</p>		応用教材